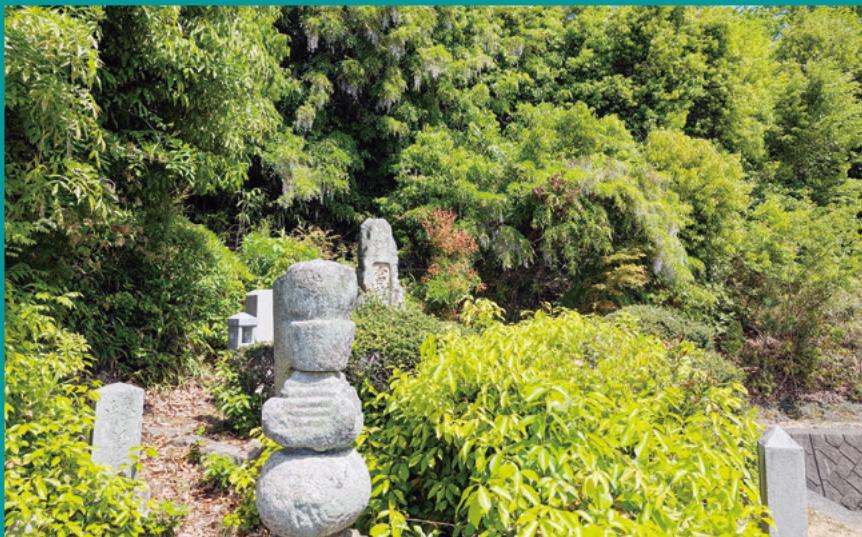


西福寺寺報 **道** - michi -
2025 (令和7) 年 降誕会号

何のために生まれてきたのか
その問題が明らかにならない生活は
百年たっても何も生まれてこない

(仲野良俊)



宗祖親鸞聖人降誕会法座

5月 22日(木) **昼席** (13:00~15:30ごろ)

夜席 (19:30~21:00ごろ)

23日(金) **朝席** (09:00~11:30ごろ)

昼席 (13:00~15:30ごろ)

ご法話 私よりも私のことをご存知の阿弥陀さま

講 師 河野法誓 氏 (坂町小屋浦 西昭寺)

親鸞聖人は承安3年4月1日(1173年5月21日)、ご誕生されました。聖人の降誕をとおして、阿弥陀仏のおこころをご一緒にお聴聞いたしましょう。



宗祖親鸞聖人降誕会法座

YouTube 配信 URL

22日昼席 22日夜席 23日朝席 23日昼席



上のQRコードを読み込み、YouTubeにリンクすると、すぐにお聴聞することができます。

寺報を読み終わった後はしまい込みないで、ご家族みんなでご覧ください。
子どもさん、お孫さん世帯など用に2部以上必要な方は、お知らせください。

※題字「道」は本願寺蔵『顕淨土真実教行証文類』総序より

浄土真宗本願寺派
(本山: 西本願寺)

多聞山

西福寺

〒739-0152

東広島市八本松町吉川153-2

TEL: 082-429-1038

FAX: 082-429-1398

佛教婦人会月例法話会 (お寄り講 13:30~15:00)

6月 16日 (月)

西福寺庫裏 (下野原)

7月 11日 (金)

波光三千春様宅 (下横野)

8月 お休み

お経会 (大人の寺子屋)

(毎月第3木曜日 13:30~15:00)

『正信念仏偈』を読む

6月 12日 (第2木曜日)

7月 17日

8月 お休み

9月 18日

オアシス法話会

(毎月第4木曜日 13:30~15:00)

『不安に寄り添う』

6月 26日

7月 24日

8月 お休み

9月 25日

土曜学校

(毎月第2土曜日 9:00~10:00)

6月 14日

7月 12日

8月 23日 (第4土曜日)

17:00~夏の寺子屋

9月 20日 (第3土曜日)

Contents

23 お寺だより 45 お知らせ

6 浄土真宗のことば入門 広辞苑編

7 浄土真宗のことば入門『正信念仏偈』

【4日朝参拝者7名】
め『正信念仏偈』
【4日扈参拝者12名】
め『正信念仏偈』
【ご法話】3日扈席
本日は「極楽」という言葉について、改めて味わつてみたいと思います。阿弥陀経には、極楽とは「諸々の苦しみがなく、ただ樂を受ける世界」だと説かれています。十万億の仏の世界を越えた遙か彼方にあると記されていますが、それは單なる物理的な距離ではありません。私たちの心にあ

【3日夜】参拝者40名	【3日夜】参拝者40名
【3日夜】参拝者8名	【3日夜】参拝者8名
め『三奉請』『表白』『仏説』	め『三奉請』『表白』『仏説』
阿弥陀經・念佛和讃』	阿弥陀經・念佛和讃』
信徒総追弔会兼修	信徒総追弔会兼修
※門	※門
お勤	お勤

【元法話】「元和讃のお話」
竹田嘉円氏(呉市本通明円寺)

仏さまのさとりの心との間に横たわる、深く大きな隔たりを表しているのです。ご法話の冒頭では、マイクを使って「聞こえていませんか?」と皆さんに呼びかけました。聞こえている人は「聞こえています」と応えられます、が、聞こえない人にはその声すら届きません。多数派の声にかき消され、返事ができない人たちが見えなくなってしまう。そのことをとおして、本当の意味での「平等」とは何かを考える機縁となりました。

仏さまの平等とは、すべての人に同じものを与えることではなく、それぞれに必要なものを与え、個々に応じた慈悲を注いでくださることです。私たちもまた、相手の立場や状況を尊重し、違いを認め合いながら、心を配つていくことが求められているのです。

続いて、永代經についてもお話しします。永代とは「代々にわたり」、經とは「仏さまの教え」を指します。ご先祖が長い年月をかけて大切に守り伝えてこられた

教えを、今の私たちが感謝とともに受け取り、次の世代へと手渡していく。それが永代経に込められた尊い願いであり、永代経懇志もまた、その思いを託す大切な行いなのです。お仏壇やお寺も、こうしてつながる「いのち」の流れの中で、かけがえのない存在となっています。

さらに、ご法事や年回法要は、亡き方を偲び、感謝の心を捧げるとともに、私たち自身が今をどう生きるかを問い合わせ大切な場です。仏教は「死後の世界」を語る教えではありません。「今この瞬間」をどう生きるか、日々をいかに味わい、歩むかを教えていきます。亡き方の命をとおして、自らの命の尊さを知り、感謝とともに精一杯生きていくこと。それが、仏さまの願いに応える生き方なのです。

あるラジオ番組で、子どもたちに「幸せって何?」と尋ねたところ、幼稚園児の男の子が「お寿司と唐揚げが食べられること」と答えたそうです。好きなものを食べること、それは確かに

に素直な喜びであり、小さな命の素朴な幸せの感覚に胸を打たれます。一方、中学生の女の子は「お金があつて、安心して暮らすこと」と答えました。物質的な安定も大切です。ですが、それだけでは本当の安心や満たされた幸せには至らないことに気づかされます。豊かさだけでは心の寂しさを埋めることはできないのです。また、小さな子どもが「幸せって、優しいこと」と語ったエピソードもありました。人から優しくされると心が温かくなり、自分もまた誰かに優しくしたいと思う。そうした関わりの中にこそ、仏教が説く本当の幸せが息づいているのだと教えられます。

宗祖降誕会法座次第

23	日朝席	22	日昼夜席	お勤め
	夜席		『正信念仏偈』	
	『しんじんのうた』		『正信念仏偈』	

一、「淨土真宗の教義（私の歩む道）」より「教義」「生活

一、『聴聞の心得』

一、佛教讚歌

一
ご法誦後半（約3分）
※夜席は約40分（休憩なし）

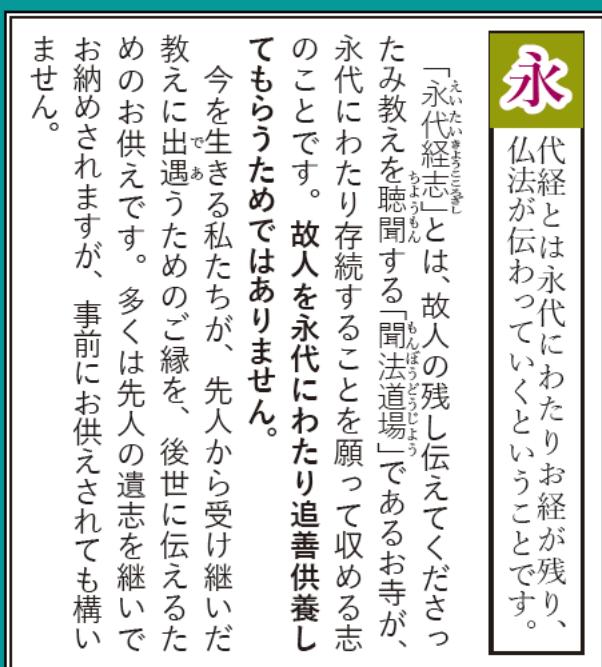
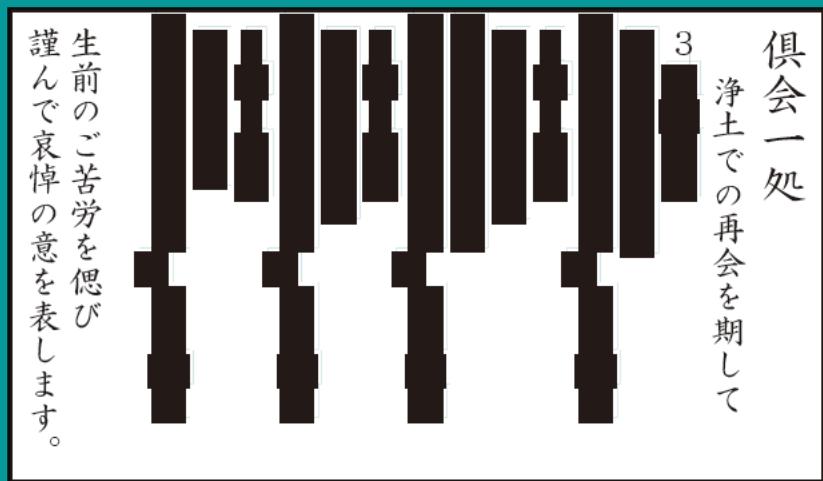
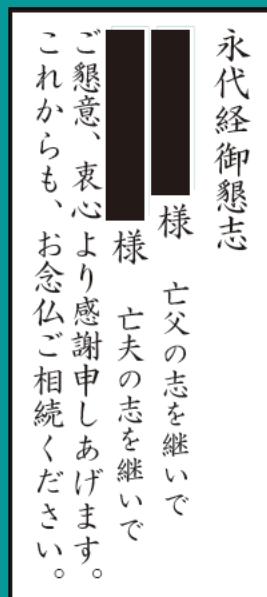
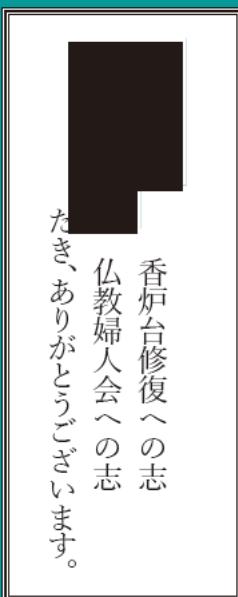
一、『恩徳讃』

YouTube saifukuji_inweb 最新情報

チャンネル登録者数	635
チャンネル視聴回数	110,468 回
総再生時間	18,604.1 時間

春季永代経法座アーカイブ

4/3 夜席 4/3 夜席 4/4 朝席 4/4 夜席
4/4 夜席 (4/4 夜席は完売)



永

代経とは、故人の残し伝えてくださったみ教えを聴聞する「聞法道場」であるお寺が、永代にわたり存続することを願つて収める志のことです。故人を永代にわたり追善供養してもらうためではあります。

原地区保険金・護持金報告

収入合計 108,000円

(内訳) 保険金 81,000円
護持金 27,000円

「西福寺報恩講」として管理し、本堂火災保険料、公共スペースの維持管理費、経年により破損した仏具・備品の修理代などに使わせていただきます。

ご支援ご協力有り難うございました。

多聞山西福寺住職・門徒総代会



原地区世話係のみなさまへ
火災保険負担金、護持金の集金に際しましては、ご足労いただき、有り難うございました。
今年度もよろしくお願ひいたします。

総代会・世話係合同境内清掃

6月7日(土) 8:00~10:00ごろ

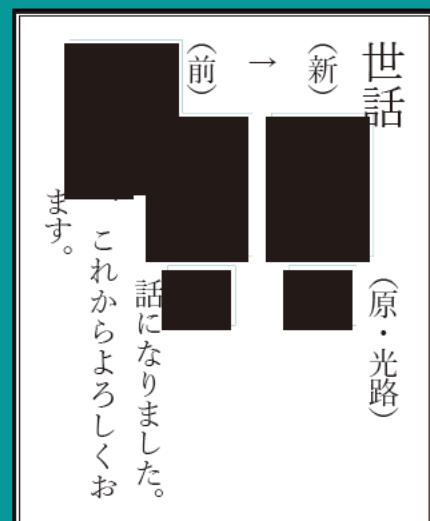
雨天の場合は6月8日(日)に延期

※掃除道具は各自でお持ちください。
※吉川長寿会のみなさまにもご協力いただきます。

仏教婦人会地区役員境内清掃

7月27日(日) 8:00~10:00ごろ

※掃除道具は各自でお持ちください。



感謝

東広島組下西条法中ダーナ法座のご法礼とお賽錢、51,400円を、東広島組ダーナ基金に募金として送りました。ご協力ありがとうございました。

チャンネル
登録

よろしく
お願ひい
たします。

西福寺の法座は YouTube でいつでもお聴聞できます。

YouTube チャンネル「saifukuji_inweb」をぜひお気に入りへ！！

YouTube のページで
「多聞山西福寺」と検索
して、右の画面を表示
してください。

スマートフォンなどですと、下のQRコード
を読み込めば、リンク
ボタンをおすだけで、
すぐに右下の画面が表示
されます。



LIVE 配信中の法座は、
一番左か一番上に表示
されます。

LIVE マークが目印です。

※スマートフォンでのお聴聞は、
通話料とは別のデータ通信料
が必要となります。料金プラン
によっては高額になる場合
がありますので、ご注意ください。

パソコンでの画面



スマホでの画面



ここをクリックすると、保存さ
れている法座一覧を見ることができます。

お聴聞したいご法座をクリック
すると、すぐに再生がはじまり
ます。

ここをタップすると、保存され
ている法座一覧を見ることができます。

お聴聞したいご法座をタップする
と、すぐに再生がはじまります。

「西福寺はちす墓苑」新規利用者募集 (門信徒 (西福寺とご縁のある方) 限定)

● 新規区画永代使用 30万円 (1区画 1m × 2m)

※永代管理費、墓石代別



● 門信徒合同墓

永代納骨 ひとり5万円 (4人以上は20万円)

※納骨後は遺骨のお返しはできません。

一時預かり

ひとり1万円 (年間)

※ひと世帯1名のみ 最長32年間。

詳しいご相談、お申し込みはお寺までご連絡ください。



市に虎あり

【戦国策（魏策）】（虎が市にいるはずはないといふには信じてしまう意）事実無根の風説も、言う人が多ければ遂には人をまどわすに至るというたとえ。「三人市虎を成す」とも。

三人虎を成す

【戦国策（秦策）】（3人が虎が出たと言えば本当のことになる意）根拠のない噂も、大勢の人が言えば本当になるということ。

（『広辞苑 第七版』）

インターネットで質問をすると、A-Iが答えてくれるサイトがあります。どんなジャンルに対応しているので、調べものをするのに便利です。しかし、その答えに違和感がある場合もあります。特に、浄土真宗のことを聞いたとき、強く感じます。ネットニュースなども、根拠のない憶測だけの記事や、偏見に満ちた誹謗中傷が掲載されることもあります。ところが、その内容を信じるひとが多数になると、そちらの方が真実であるかのように広まるものです。

『戦国策』とは、中国の戦国時代に各地で遊説した人びとの言説や国策、その他の逸話を国別に分類し、編集した書物です。前漢の劉向（紀元前77年～紀元前6年）が33篇の書にまとめ、『戦国策』と名づけたといわれています。

いつの時代も、流説によって人びとを惑わし、また惑わされる人びとがいたのです。インターネットやA-Iの発達により、扱える情報量が多

くなつたとしても、人間の本質が変わらない限りは、根拠のない言説に惑わされることではなくならないのかかもしれません。

【三人よれば文殊の智慧】という言葉があります。3人が意見を寄せ合い議論をつくせば、仏さまや菩薩さまのような智慧を得ることができ

までも、それぞれが根拠のない意見を言い合はだけでは、とても真実の智慧を得られるとは思いません。どんなにたくさんの数をかけ合わせても、ひとつ「0」が混じるだけで、答えは「0」になってしまいます。

仏教には「三毒の煩惱」という言葉があります。

さんどく 三毒

3種の代表的な煩惱。三垢・三惑などともいう。貪欲・瞋恚・愚痴の3種で、貪・瞋・痴とも略する。この三毒は衆生を害する根元であるから三不善根ともいわれ、諸善を生ずるもととなる三善根（無貪・無瞋・無痴）に対する。

とんよく 貪欲

三毒の一。貪愛などともいう。むさぼり・我執のこととで、自己の好む対象に向かってむさぼり求める心をおこすこと。

しんに 瞋恚

三毒の一。いかり・腹立ちのことで、憎しみ怒り、心が安らかではないこと。

ぐち 愚痴

三毒の一。真実の道理に無知なこと。仏教の言葉の意味や教えについて無知なこと。

ぼんのう 煩惱
梵語クレー・シャ（klesa）の意訳。惑とも意訳する。身心を煩わせ、惱ませる精神作用の総称

（『浄土真宗辞典』本願寺出版社）

親鸞聖人は「浄土文類聚鈔」に

雜毒の善をもつて

かの淨土に向する

これ必ず不可なり

とお示しくださっています。どれほど善い行い

をしたとしても、少しでも「煩惱」が混じつた

「雜毒の善」では、真実のさとりを得ることはでき

きないのです。

また、どんなに煩惱を起こさないように思つ

ても、なかなかできないのがこの私です。世の中には、煩惱をコントロールする方法がさまざま紹介されています。しかし、私たちは煩惱の起こし方を習つたわけではないのに、いつのころからか煩惱を起こし、それに振り回されて生活しています。学ばなくとも起こるということは、煩惱を起こすのが私の本質だということでしょう。

だからこそ、阿弥陀仏は、清淨（まつたく貪欲が無い）、歡喜（まつたく瞋恚が無い）、智慧（まつたく愚痴が無い）の心によつて願いを起こし、私たちを真実のさとりを得る身へと育て導き続けてくださっています。

膨大な情報量に押しつぶされそうになる現代だからこそ、煩惱の混じつた言葉に惑わされるのではなく、阿弥陀仏の願いを依りどころとされた、お釈迦さま、親鸞聖人、そして先人の念仏者たちの言葉に触れて、情報の質を高めていく生活を送りたいものです。

浄土真宗のことば入門 『正信念仏偈』 その57

〔本文〕

建立無上殊勝願 超発希有大弘誓

〔書き下し文〕

無上殊勝の願を建立し、希有の大弘誓を超発せり。

〔『浄土真宗聖典 註釈版』顕淨土真実教行証文類行文類〕

〔現代語訳〕

この上なくすぐれた願をおたてになり、世にもまれな大いなる誓いをおこされた。

〔『浄土真宗聖典 顕淨土真実教行証文類－現代語訳』〕

第5願「設我得仏 國中人天 不識宿命
不至不知 百千億那由他 諸劫事者 不取
正覺」(令識宿命の願)

たとい、われ仏を得たらんに、國中の人天、宿命を識らずして、下百千億那由他の諸劫の事を知らざるに至らば、正覺をとらじ

〔顕淨土真実教行証文類 浄土真宗聖典註釈版〕16ページ

わたしのが仏になるとき、わたしの國の天人や人々が宿命通を得ず、限りない過去のことまで知り尽くすことができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。

〔『浄土三部經－現代語訳』(本願寺出版社)〕

世尊よ。もしも、かのわたくしの仏国土に生まれた生ける者どもが皆、少なくとも百千億・百万劫の過去の生涯を思い出すほどの前世の記憶(宿命通)がないようであつたら、その間はわたくしは、〈この上ない正しい覚り〉を現に覚ることがありませんように。

〔『浄土三部經(上)』中村元・早島鏡正・紀野一義訳注(岩波文庫)〕

(前号からのつづき)

『華嚴經』入法界品に、善財童子が五十三の善知識を訪ね、仏道を求めた話が説かれています。その五十三知識は、僧俗、老若、男女、さまざまな職業や地位の人が含まれています。逆に言えば、私の仏教心が養われた裏には、五十三人のご縁教師があるということでしょう。因みに、私こと金婚祝いを頂いた時、若い時から自分の心を養ってくださった方々を思い起こしてみますと、五十三人以上もあり、驚いた次第でした。

精神にも宿命があるわけです。

キッズサンガで気づいたのですが、子どもたちは食事の言葉「頂きます」を知っている子が多いが、食後の「ご馳走さま」を知る子が少なく、保護者でも「馳走」の意味を知らない方が大半です。馳も走も「はしる」ことです。どんな意味か。食料品店のチラシが良い教材です。品ごと生産地が記載されています。サーモンはノルウェー、エビはアラビア、鮭はチリ、カレイはアメリカ、牛肉はオーストラリア、などと載っています。遠い国の人々が働き、それを運んでくる船・人があればこそ、近くにない珍しい「ご馳走」が食べられるわけです。車・船・人が「馳り、走る」おかげで、遠くのものが手に入るわけです。昔の人は、それを具体的に「馳走」と感謝しました。素晴らしい言葉です。

この仏願を聞くとき、私共の毎日の生活の裏に、多くの「おかげ」のあることを知らしめられます。挨拶で「お元気ですか」と問われると「有り難うございます。おかげで元気です」と答えます。「かけ」とは蔭「見えない所」であり、見えない所の多くの犠牲・支えによって「元気なのだ」という因果を思う感謝の意味で「お蔭さまで」と言うことです。

〔『四十八願の浄土』波佐間正己著(探求社)〕

この身に宿っている因縁が「お導き」であつたと頷くとき、多くの「お蔭さま」のなかに育まれていた身であったと気づかされます。それは肉体的にも精神的にも豊かに生きていく道となるのです。



